2022 年度事業報告書

2022年4月1日から2023年3月31日まで

特定非営利活動法人 心澄

1. 事業の成果

2022 年度においても、私たちは指定支援機関として、長崎県子ども若者総合相談センター(以下ゆめおす)、就労継続支援B型しんじょう(以下B型)、共同生活援助シェアホームおえん(以下おえん)、長崎地域若者サポートステーション(以下長崎サポステ)、佐世保若者サポートステーション(以下佐世保サポステ)などの事業を主軸に展開しました。

昨年度は、私たちの支援活動が悩む子どもや若者たちにとっての入り口から出口までの道筋となりました。私たちは彼らに支援の場だけでなく生活の場も提供し、さまざまな面で組織的な支援を 実施しました。その結果、私たちの支援メニューはますます充実し、非常勤という形ではあります が総合的な専門性を持つ専門家との連携も進展しました。

しかし、私たちは認知度向上や他の子ども若者支援団体との協力に関して、まだ大きな課題を抱えています。私たちの存在や活動を広く知っていただくための周知啓発活動を強化し、連携強化のための機会を模索する必要があり、これが今年度の計画に繋がっていきます。

また、寄付金に関しても課題が残っています。私たちは認定 NPO としての地位を得ながらも、十分な寄付増加には至っていません。寄付金の多くはスタッフからのものであり、持続的な支援を確保するためには打開策が必要です。助成金なども活用しながら、資金面の安定を追求する予定です。2022 年度は、今年度の計画に繋げるために、相談支援が必要だが不要と思っている子ども若者たちに対する予防支援や環境整備を行うための準備の年としました。彼らが気軽に通える場所や支援を提供することで、より多くの若者たちの可能性を引き出せるように取り組むための下準備ができたものと感じています。

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事 業 内 容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者 の範囲及び 人数(件数)	事業費 の金額 (千円)
訪 問 相談事業	・訪問 ひきこもり当事者及びその 家族を対象にした個別相談 及び訪問支援	通年	長崎市と近郊の市町	5名	長崎市とその近郊の 市町に住む、ひきこも り当事者及びその家 族 利用者延 165名	438 千円
自立支援事業	・居場所 ひきこもり当事者等を対象 にコミュニケーショントレ ーニング	週1回	事務所他長崎市近隣	3名	長崎市とその近郊の 市町に住む、ひきこも り当事者等 利用者延 78名	3, 027
	・清掃ボランティア ひきこもり当事者等を対象 に清掃活動を通し経験の再 体験の場を提供	週1回	事務所他長崎市近隣	2名	長崎市とその近郊の 市町に住む、ひきこも り当事者等 利用者延 75名	千円

・七色クローバー ひきこもり当事者等が中心 となり絵等を描き作品を作 り、不定期で地元のイベン トへの出店を行う	週 1 回	事務所他長崎市近隣	1名	長崎市とその近郊の 市町に住む、ひきこも り当事者等 利用者延 79名	
・家族会 家族に対し、情報交換や交 流の場の提供	月1回	事務所他長崎市近隣	2名	長崎市とその近郊の 市町に住む、ひきこも りの家族及び当事者。 利用者延 44名	0 千円
・人形劇団しんじょう 保育園等の園児に対し防災 教育を行う	週1回	事務所他 長崎市近隣	2名	長崎市とその近郊の 市町に住む、ひきこも り当事者等 利用者延 68名	1 千円
・就労体験 就労を目指している者に対 して、イメージ作り等のた めに職場体験を行う	通年	事務所他長崎市近隣	3名	長崎市とその近郊の 市町に住む、ひきこも り当事者等 利用者延 51名 協力企業 44社	0 千円
・心澄団らん 就労後に再孤立化しないた めに、夕ご飯を共にする時 間を提供	月 1 回	事務所	3名	長崎市とその近郊の 市町に住む、ひきこも り当事者等 利用者延 60名	57 千円
・来談 心澄事務所に来て、自由に 過ごす。また、本人の希望 により各種活動に参加	通年	事務所他長崎市近隣	1名	長崎市とその近郊の 市町に住む、ひきこも り当事者等 利用者延 727名	0 千円
・相談事業 (長崎県子ども・若者総合相談 センター事業)	通年	事務所他 長崎県内	5名	長崎県域 延相談件数 6,786 件	
・相談事業 (地域若者サポートステーション及びそれに付帯する事業)	通年	長崎県全域	37 名 ゆめおす 兼務除く	長崎県域 延相談件数 12,836 件	
・相談事業 (五島市氷河期世代支援事業) 五島市内の就職氷河期世代 者に対して、就労支援を行 う	通年	五島市	3名	五島市内 就職氷河期世代の方	104, 304 千円
・相談事業 (五島市子ども・生活困窮支援) 五島市内のひとり親家庭世 帯に対して食糧や日用品当 の支援を行う	通年	五島市	2名	五島市内 ひとり親家庭世帯の 方	
・校内居場所カフェ 近郊の通信制高校にて、不 登校や退学予防のための学 内アウトリーチ	通年	こころ未来高等学校	2名	こころ未来高等学校 在校生 利用者延 281名	0 千円
・助成事業 赤い羽根共同募金 コロナの影響により状況が 悪化している、子ども若者 のための必要な物資支援 (食料・消耗品等)	通年	事務所長崎県内	1名	長崎市とその近郊の 市町に住んでおり、コロナ等の影響で生活 状況が悪化している 子ども・若者。 利用者延 268 名	854
・助成事業 生活困窮者支援体制プラットフォーム整備事業	通年	事務所長崎県内	1名	生活困窮者が引け目を感じることなく利用できるよう居場所等の確保を行った。 ※利用は来談として集計	千円
	<u> </u>	1		<u> </u>	

ひきこも	外部講演等	通年	長崎県内	2名	長崎県域 聴講者数延 8,560名	
りに関す る周知セ ミナー等 事業	定時制・通信制高校等 合同説明会	2022. 10. 1	長崎県庁	スタッフ 10名 ボランティア 約30名	長崎県内で定時制・通 信制への進学等を検 討している当事者及 び携わる者 来場者計 228名	200 千円
障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業 (就労継続支援B型)	・就労継続支援 B 型 しんじょう 現時点で一般就労が難しい 障碍を持つ方々に就労の機 会を提供するとともに、そ の能力の向上に必要な訓練 等を行う。	通年	事務所他長崎県内	4名	長崎県内在住の障碍者 利用者延べ6,187名	33, 763 千円
障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業 (共同生活援助)	・GH 18 歳以降の虐待の影響 下にある者を主な対象 として実施し、死なない 生き方と、生き方の獲得 を目指す。	通年	おえん(GH) 事務所他 長崎県内	5名	長崎県内在住の障碍者 入居者 10名 (3月31日時点) 延利用者数 3,477名	20, 728 千円

(2)前年度比

						年 度			
			2017	2018	2019	2020	2021	2022	前年比
		訪問	136	147	153	187	112	165	147%
		居 場 所	200	126	215	104	180	78	43%
	家族会		85	118	91	60	54	44	81%
	人 形 劇		541	439	364	461	475	68	14%
	清掃ボランティア		110	92	73	20	100	75	75%
	七色クローバー		33	67	79	72	124	79	64%
	来談		918	1,031	1,072	780	1152	727	63%
事		心澄団らん	120	142	117	89	100	60	60%
業	外部講演等		607	416	1,966	1	3,585	8,560	1
沽 動	その他		216	60	47	37	1	19	-
事業·活動内容	校内居場所カフェ				253	150	171	281	164%
	相	ゆめおす	4,391	5,173	5,425	6,784	6,786	6,551	97%
	談	長崎サポステ	_	1	3,674	6,561	4,023	5,278	131%
	事	五島サポステ	_	1	863	2,911	3,790	3,474	92%
	業	佐世保サポステ	_	1	_	-	5,190	4,084	79%
		B 型	3,039	3,192	3,550	4,201	6,022	6,187	103%
	おえん					556	2,851	3,477	122%
		総計	10,491	11,093	17,944	22,417	34,715	39,270	113%

[※]就労体験はサポステ事業として実施している分を記載。